

問

- ◎茶茗館・資料館やまびこのユネスコ
エコパーク情報発信基地としての整備等は
- ◎茶茗館の運営形態、飲食の提供は
- ◎桑野山貯木場の整備運営計画は



中澤 莊也 議員



「茶茗館」の今後の管理運営は...

質問 公の施設の管理運営等を問う。①「公の施設のあり方（答申）」に係る取り組み状況は。②答申に基づき施設のあり方等見直しするにあたっての課題や問題点は。③茶茗館・資料館やまびこのユネスコエコパーク情報発信基地としての整備、運営はどのように行っていくのか。④茶茗館の管理運営方法等（飲食の提供を含む。）について、関係課、商工観光委員会等で協議検討された内容は。⑤桑山貯木場、ウツドハウスおろくぼ、白沢温泉もりのいずみの管理運営等についての考えは。

町長

①施設の担当課において、運営委員会等の意見を聴取するとともに、県内外の先進事例の調査・視察を行いながら施設のあり方を検討してきた。②地元地区の関係団体との調整が必要となるなど、行政内部の議論のみで完結させることができない場合があり、一部の施設でも見直しが十分進んでいない現状にある。時限を定めてのスピード化を持った取り組みが必要であるということを重ね認識している。

公共施設総合管理計画の考え方、第2次総合計画に掲げる施策との整合性を保ちながら、施設の価値を高めるための取り組みを進めていく所存である。③南アルプスエコパークの情報発信のために、施設のリニューアルや

コンセプトを変更する必要はなく、管理運営についても施設ごとに適切な運営方法を選択して管理をしている。④シルバー事務局退所後の新たな運営形態を検討している。現段階では、「地場産業の振興及び地域活性化」、特にお茶を主体とした宣伝普及・研究調査・伝統文化の伝承を再確認し、お茶を主体とした地場産業振興の拠点施設として位置づけをしていきたいと考えている。飲食の提供については、今後の管理運営及び運営形態を検討する中で、必要があれば検討していきたいと考えている。飲食の提供の議論の前に、お茶を主体とした地場産業の振興、とりわけ茶の販売促進につなげる仕掛けをこの施設ではどのように展開するか、議論を進めていきたい。

公共施設総合管理計画の考え方、第2次総合計画に掲げる施策との整合性を保ちながら、施設の価値を高めるための取り組みを進めていく所存である。③南アルプスエコパークの情報発信のために、施設のリニューアルや



毎年秋に茶茗館で開催される「秋の夜長を楽しむ会」

⑤桑山の貯木場については、仕分け機能を持った土場として、森林組合大井川に運営をお願いする予定である。また、事務所等の施設については、十分活用できる状態であるので、林業に関する施設として整備していきたいと考えている。白沢温泉もりのいずみ、ウツドハウスおろくぼともに今後も指定管理による運営をし、町も連携を図りながら交流人口の増加に努めていきたいと考えている。

答

- 地域の自然・文化を施設の特徴を生かしてPR
- お茶を主体とした地場産業の拠点として直営で運営
飲食の提供は、必要があれば今後検討する
- 土場の管理は森林組合 その他は未定



芹澤 廣行 議員

◎旧本川根北小学校の今後の利活用について
◎県道接岨峡線から井川へのアクセス道路について

質問 現在廃校になっている奥泉地区の旧本川根北小学校の解体処分の考えはあるか。

町長 施設の有効活用について検討すると共に、有効活用に向けて財源確保について模索していきたいと考えています。

質問 北小学校の耐震工事、解体工事費用はどの位なのか答弁をお願いしたい。

町長 平成18年度に試算した結果、管理・普通教室棟については約7900万円、特別教室、屋内運動場棟については約4900万円、総額で約1億2800万円が必要になります。また、施設を解体する場合は管理・教室棟のみの解体については2600万円、特別棟のみの解体には約2500万円、全てを解体する場合は約5100万円が必要となっています。

す。以上の金額は耐震補強や解体経費のみで、これ以外に施設改修費や施設建設費が必要となります。このため、今後につきましても施設の立地条件なども考慮し施設の有効活用について検討すると共に、有効活用に向けて財源の確保について模索していきたいと考えています。

質問 井川閑蔵線の拡幅の必要性についてどのように考えているか。

町長 静岡市井川へ通ずる延長約6kmの唯一の道路です。又、昨年6月に、本町と静岡市を含む3県10市町村にわたる南アルプス地域が南アルプスエコーパークに登録されたこと、平成28年4月より消防救急業務が本町と静岡市を含3市2町で広域化されます。このような川根本町と静岡市を取り巻く環境の変化に

より、市道閑蔵線の重要性は今後より増していききます。

質問 井川閑蔵線拡幅の為の自治体の計画状況について。

町長 静岡市では静岡市山間地域の道路整備計画を進めている。この計画において市道閑蔵線の整備計画は可能な限り現道の有効活用を図りながら、道路機能強化を図り1.5車線の道路整備計画となっております。この整備計画は比較的少ないコストでの施工が可能であり、効率的であり迅速な道路整備が期待でき、地域住民の生活の利便性をいち早く向上させることが可能であります。このような計画のもと平成22年度から整備が実施されており静岡市建設局から当該道路について、引き続き整備を実施していくというふうにつ

ております。

質問 川根本町、井川地区を含めて8千人強の人口しか存在しない現実の中で、水と森の番人の役割は可能か。

町長 平成27年度より2ヶ年をかけ総合計画を策定し、静岡市との連携を一層深め、井川地区と足並みをそろえて、地域の活性化を図っていききたいというふうに考えています。また、本町、静岡市、早川町も含めて協議会を立ち上げたいと考えています。

今後の活用が期待される
旧本川根北小学校(奥泉)



答

- 北小の有効活用については大変な経費が必要だが調整をしながら対応していきたい
- 市道閑蔵線の整備計画は平成22年度から実施されており、静岡建設局が引き続き実施していく